



秋田公立美術大学 国際交流シンポジウム

チェコから秋田へ アートキャンプの試み



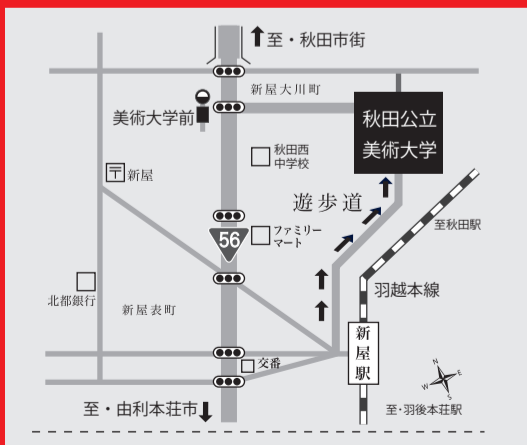
アートキャンプ写真提供：平石かなた

2016
12/3(Sat)
14:15~18:00

秋田公立美術大学・大講義室
(秋田市新屋大川町 12-3)

入場無料・申込不要
一般参加可・出入り自由

【問い合わせ先】
学生課
TEL:018-888-8105
mail: kyomu@nts.akibi.ac.jp



主催：秋田公立美術大学 国際交流委員会
遊工房アートスペース

秋田公立美術大学
AKITA UNIVERSITY OF ART

14:15 ~ 15:15

ArtCamp / International Summer School of Art 参加報告

美大生や若手作家の ArtCamp 参加を支援する遊工房アートスペースの取り組み、今年開催された ArtCamp の背景について辻真木子氏から発表いただき、続いて、参加者による報告を行います。

- ・辻真木子 (遊工房アートスペース AIR コーディネーター) 「チェコにおける日本の取り組み」
- ・平石かなた (本学アーツ&ルーツ専攻4年) ・王璟怡 (女子美術大学大学院) ・森千咲 (美術家)

15:30 ~ 18:00

パネルディスカッション「秋田国際アートキャンプの可能性」

五城目でギャラリーを運営し ArtCamp にも参加された小熊隆博氏と ArtCamp に講師として参加された矢嶋一裕氏、秋田市企画調整課の齋藤一洋氏にご発表いただき、学生を派遣した東京藝術大学 OJUN 氏と女子美術大学の日沼禎子氏、遊工房の村田達彦氏と共に、秋田での ArtCamp 開催の可能性について討論していただきます。

パネリスト発表

小熊隆博 (ギャラリー「ものかたり」企画・運営)
×
「ArtCamp 体験および企画運営に関するリサーチ報告
“自由な表現”の機会をマネジメントする」

矢嶋一裕 (矢嶋一裕建築設計代表)
×
「ArtCamp に参加して考えたこと」

齋藤一洋 (秋田市企画財務部企画調整課長)
×
「芸術・文化によるまちこし〜秋田市のまちづくりの取り組み〜」

ディスカッション

パネリスト 3 名 (小熊氏、矢嶋氏、齋藤氏)
×
OJUN (東京藝術大学教授)
×
日沼禎子 (女子美術大学准教授)
×
村田達彦 (遊工房アートスペース共同代表)

司会：志邨匠子 (秋田公立美術大学 教授)

※13:00 ~ 14:00 同会場にて、今夏、海外のワークショップやサマースクールに参加した本学学生を中心とした成果報告を行っております。
ご興味のある方はぜひご参加ください。

チェコから秋田へ アートキャンプの試み

プロフィール

辻 真木子 (ツジ マキコ)

遊工房アートスペース AIR コーディネーター。1991 年生まれ。女子美術大学・大学院（アートプロデュース領域）在学中に遊工房アートスペースでインターン・アルバイトを経験し、卒業と同時にスタッフとして従事。AIR 運営コーディネーションと共に Artist in Residence for Young (Y-AIR) の実践、世界のマイクロレジデンス紹介サイト Microresidence Network を運営。

ArtCamp(アートキャンプ)について

チェコのプルゼニ市では、西ボヘミア大学が中心となって、2005 年から国際サマースクール「アートキャンプ」が開催されています。このアートキャンプでは、アーティストだけでなく、広く一般から参加者を募り、2013 年からは日本人も参加しています。各国から集まった参加者は、アートやデザイン、建築、ダンスなど広範なコースから、希望のコースを選択し、最長で3週間（3コース）の講座を受けることができます。遊工房アートスペースは、日本の美大生や若手作家にアートキャンプ参加の機会を提供しています。

パネリスト・プロフィール

小熊 隆博 (オグマ タカヒロ)

秋田県五城目町出身。京都造形芸術大学大学院修了後、香川県の「ベネッセアートサイト直島」にて勤務。2015 年に地元である五城目町に「地域おこし協力隊」として着任し、2016 年には合同会社みちひらきを設立。同年に、ギャラリー「ものかたり」を開設する。展示される「もの」と向き合い、その価値を人でなく「もの」自身が語り始める場として、展覧会、ワークショップ、レクチャー等を開催するほか、書籍、アーティストグッズ、地元職人によるオーダー商品等を取り扱っている。

矢嶋 一裕 (ヤジマ カズヒロ)

1976 年、埼玉県に生まれる。法政大学とシュツットガルト芸術アカデミー（ドイツ）で建築デザインを学ぶ。2005 年に法政大学大学院修士課程修了後、建築設計事務所勤務を経て、2010 年に独立し現在に至る。「鳥の巣箱からスカイスクレイパーまで」面白いことなら何でもやってみよう様々なプロジェクトに取り組んでいる。ar+d Award for Emerging Architecture 2012（イギリス）など国内外で多数の受賞歴がある。

齋藤 一洋 (サイトウ カズヒロ)

1965 年秋田市生まれ。秋田市企画財政部企画調整課長。秋田市の成長戦略「芸術文化・スポーツ・観光による都市の魅力向上」の取組の一つである「芸術・文化によるまちおこし」の実現に向け、文化施設整備・機能集積による中心市街地の「芸術文化ゾーン」としての充実や、市民との協働による地域活性化の取組として「(仮称)あきた芸術祭」の開催検討などを担当。私的活動でも路上観察、考現学、建築探訪など「まちあそび」「まちいじり」に関わる。



ディスカッション登壇者・プロフィール

日沼 禎子 (ヒヌマ テイコ)

女子美術大学芸術学部 アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域准教授。ギャラリー運営企画会社、美術雑誌編集者等を経て 1999～2011 年まで国際芸術センター青森設立準備室・同学芸員として、アーティスト・イン・レジデンスを中心としたアーティスト支援、プロジェクト、展覧会を多数企画、運営に携わる。現在、市民アートサポート組織「ART izan」プログラムディレクター、アートNPO リンク理事（AIRネットワーク準備会担当）、陸前高田 AIRプログラムディレクター、さいたまトリエンナーレ 2016 プロジェクトディレクターを歴任。

O JUN (オウ ジュン)

1956 年、東京都生まれ、東京在住。1982 年、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。1984 年以降スペイン、ドイツおよびアルゼンチンなどで滞在制作を行う。2003 年より東京造形大学、女子美術大学などで指導、2009 年から東京藝術大学美術学部で准教授、2014 年より教授を努める。絵画を中心にパフォーマンスなど様々な表現形式で作品を制作。ミヅマ・アートギャラリーを中心に国内外で個展、グループ展など多数開催している。

村田 達彦 (ムラタ タツヒコ)

遊工房アートスペース 共同代表。レズ・アルティス財団 (Res Artist Foundation, Amsterdam) 名誉理事、Microresidence Network 共同創始者。東京・杉並で村田弘子と共同で創作・展示・滞在のできるアーティストのための館を運営。1989 年以降、海外 25ヶ国、250 名余の滞在制作アーティストをサポート。2010 年からは、世界中のマイクロな存在の独自運営の AIR を「マイクロレジデンス」と名付け、「その顕在化と、AIR の社会装置としての役割について調査・研究を通し、国内外ネットワーク活動を推進。